

(仮訳)

歴史の転換期における日本外交と日英パートナーシップの将来

(令和5年6月21日 17時～18時 (現地時間))

1 はじめに

ブランド部長、御紹介いただきありがとうございます。

お集まりの皆様、本日は、名誉あるチャタム・ハウスで講演する機会を賜り、光栄に思います。

ブランド部長が述べられたとおり、私はビートルズの大ファンであることを白状せねばなりません。外務大臣としての私の初めての外国出張は、G7外相会合が開催されたリバプールでした。私は、ビートルズ・ストーリー博物館のジョン・レノン氏のアイコン的な白いピアノのレプリカで「イマジン」を演奏し、記憶に残るデビューを飾りました。

我々は今、急速に厳しさを増す国際安全保障環境の中、歴史の転換期に直面しています。ロシアによるウクライナ侵略がポスト冷戦の時代の終わりを告げましたが、次の時代がどのようなものになるかはまだ見えていません。我々は、激しさを増す地政学的競争が気候変動や感染症といったグローバルな課題と絡み合う、複合的な危機に対応しなければなりません。

新たな時代を見据えて求められているのは、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を維持し、強化するとともに、世界を分断や対立ではなく協調に導くとの共通の目標に向けて、途上国を含む国際社会が直面する諸課題に取り組むことです。

外交の価値が試されています。

このような問題意識の下、G7広島サミットでは、G7、グローバル・サウスと呼ばれる国々を含む招待国及びウクライナの首脳とともに、我々は、次の4つの点が重要であるとの認識を共有しました。

第一に、全ての国が、主権、領土一体性の尊重といった国連憲章の原則を守るべきこと。

第二に、対立は対話によって平和的に解決することが必要であり、国際法や国連憲章の原則に基づく公正で永続的な平和を支持すること。

第三に、世界のどこであっても、力による一方的な現状変更の試みは許されないこと。

そして最後に、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を守り抜くことです。

このようなビジョンを行動に移す上で、英国が、日本にとって、新たな時代を共に切り開く欠かせないパートナーであるということ、これが、本日私が強調したいことです。

近年、日英関係は劇的な進化を遂げてきました。そのような中で、日本と英国が取り組むべき具体的なミッションとは何でしょうか。先月、岸田総理とスナク首相が発出した「日英広島アコード」は、日英関係の新たな章を開くに当たって両国が取り組む具体的な協力を示しています。

本日は、「日英広島アコード」の下での我々の協力の行動に通底する今後の日英協力の3つの指針をお示ししたいと思います。

第一の指針は、「新たな時代を切り開く (Shaping the New Era)」。我々の協力は、望ましい国際安全保障環境を形成するという決意に根ざしています。

第二の指針は、「共同の能力を高める (Building Joint Capabilities)」。我々の協力は、意見の調整にとどまらず、共通の課題に共に対処する能力を高めることを目指します。

第三の指針は、「持続可能性及び繁栄のために互いに鼓舞し合う (Inspiring Each Other for Sustainability and Prosperity)」。我々は、互いの強みをいかし、経済成長と持続可能性の上に成り立つ包摂的な繁栄に向けて取り組みます。

これらの指針の下で、日本と英国が今日の戦略的課題にどのように取り組んでいくのか述べたいと思います。

2 第一の指針：望ましい国際安全保障環境を形成する

(1) 欧州：ロシアによるウクライナ侵略への対応

国際社会が歴史的転換期を迎える中、新たな時代を切り開く上でロシアによるウクライナ侵略への対応は決定的に重要な要素となります。ウクライナでは、議論の余地のない主権と領土の一体性の原則が挑戦を受けています。我々が力による一方的な現状変更を許せば、同じ事態が東アジアを含む世界の他の場所でも生じてしまうかもしれません。

日本は、このような危機意識から、対露政策の大転換を決断しました。厳しい対露制裁やウクライナへの強力な支援は、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序の維持・強化のための取組そのものです。また、G7首脳が広島から発信したように、ロシアによる核の威嚇、ましてやその使用はいかなる状況においても断じて許されないというメッセージを国際社会に対して力強く発信し続けることが重要です。

日本は、G7サミットの、次に掲げる成果をフォローアップすべく、同志国と協力していきます。

- (i) 民間部門の参画を得た形でのウクライナの復旧・復興に向けた力強い支援の提供
- (ii) 制裁の回避・迂回対策を含む厳しい対露制裁の継続
- (iii) グローバル・サウスへの関与

そして、我が国として、G7サミットでのコミットメントを実行に移すため、私が約20社の日本企業とともに、ここロンドンにおいて、ウクライナ復興会議に出席しました。明日は日・ウクライナ・ビジネス・ラウンドテーブルも開催いたします。時宜を得た形でこの重要な会議を開催する英国の取組に敬意を表します。また、民間部門の関与を得る観点から、官民双方における第三国との連携も重要です。ここにも日英連携の可能性があると考えます。

日本は、戦後の荒廃や自然災害からの復興を通じて得た自らの経験と知見をいかし、地雷除去や瓦礫の撤去、基本インフラの整備を通じた生活再建、農業生産の回復、産業の促進、民主主義とガバナンスの強化等を含む日本ならではの支援を実施していきます。

欧州とインド太平洋の安全と繁栄は不可分です。国際社会の平和と繁栄を守り抜くため、日本と英国は、言葉と行動を通じて、力や威圧による一方的な現状変更の試みは世界のいかなる場所においても許されないことを示さなければなりません。

(2) 自由で開かれたインド太平洋の実現

新たな時代を切り開く上での、日本と英国の第二の課題は、地殻変動的なパワー・バランスの変化が見られるインド太平洋にあります。インド太平洋は、経済成長やイノベーションの原動力としてのその大きな潜在力について期待される一方、不透明かつ急速な軍事力の拡大、力による一方的な現状変更の試み、経済的威圧等の問題もあります。

インド太平洋の将来は、この地域のみならず、世界全体の新たな時代を形づくるものです。私たちの戦略的課題は、この地域の潜在力を、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序の下での国際社会全体の安定と繁栄につなげることです。自由で開かれたインド太平洋、すなわち F O I P という私たちのビジョンもこれを支えるものです。

この課題に取り組むに当たり、地域と世界の将来において中国が果たす役割について考えることは避けて通れません。

G7 広島首脳コミュニケにも明記したとおり、我々は、中国に率直に関与し、我々の懸念を中国に直接表明することの重要性を認識しつつ、中国と建設的かつ安定的な関係を構築する用意があります。我々は、国益のために行動します。グローバルな課題及び共通の関心分野において、国際社会における中国の役割と経済規模に鑑み、中国と協力する必要があります。

私は、4月に中国を訪問し、秦剛国務委員兼外交部長及び王毅外事工作委員会弁公室主任や李強国務院総理との会見等を通じ率直にこのような立場を伝えました。今後も、諸懸案も含め、様々な機会に中国と対話を重ねていきます。

同時に中国は、確立された国際ルールを守り、これに反するような形で国際秩序を力や威嚇によって変更することはできないし、変更しないという戦略的決断を下さなければなりません。それを実現するための取組は息の長いものである必要があります。

また、我々は、経済的強じん性を高めるため取り組まなければならない、そのためにはデカップリングではなくデリスキングに向けた一層の努力が求められます。中国との間で建設的かつ安定的な関係を構築することは、この地域の針路を決める上で非常に重要でしょう。

インド太平洋の将来を語る上で、インド、ASEANや太平洋島しょ国との協力を強化することの重要性を強調しないわけにはいかないでしょう。今年のG20議長国であり、世界最大の民主主義国で、基本的価値と戦略的利益を共有するパートナーであるインドとのパートナーシップの強化は、FOIPを追求する上で極めて重要な要素です。我々と東南アジア諸国との関係は、インド太平洋地域における平和と繁栄の中核を構成し、FOIPに向けた我々のビジョンとインド太平洋に関するASEANアウトルックは互いに共鳴しています。

また、軍縮・不拡散の取組も、この地域にとって重要な要素です。中国は不透明な形で核戦力の増強を加速させており、北朝鮮は核・ミサイル開発を続けています。安全保障上の懸念に対処するとともに、我々が核軍縮の進展に向けた現実的かつ実践的な取組を進めることが不可欠です。さらに、中露は、ロシアによるウクライナ侵略後も軍事的連携を強化させており、今月初旬には日本周辺で初めて2日連続となる爆撃機の共同飛行を実施しています。

このような中、英国は、インド太平洋における我々の取組において重要な存在です。英国は、「統合的見直しの刷新」において、インド太平洋地域への関与を国際政策の恒久的な柱とすることを表明し、FOIPのビジョンへの支持を表明しました。また、英国は、中国に対して「防衛 (protect)」、「連携 (align)」、「関与 (engage)」から成る3つのアプローチを発表しており、これは日本の考えに大きく整合するものです。

さらに英国は、グローバル戦闘航空プログラム (GCAP) やAUKUS等を通して、既にこの地域に対して具体的なコミットメントを行っています。

英国がこの地域に恒久的に関与することは、戦略的・地政学的観点から慧眼です。インド太平洋地域の平和と安定は英国自身の利益であり、英国がこの地域における関与を一層強化していくことを我々は歓迎します。英国には、この地域における最も緊密なパートナーとして、日本を頼りにしていただいてよいということをお場で明確に述べさせていただきます。

3 第二の指針：戦略的課題と向き合う共同の能力を高める

さて、先ほど述べたとおり、日英協力の第二の指針は「共同の能力を高める (Building Joint Capabilities)」です。このような戦略的課題を背景に、日本と英国は、アジアと欧州において互いに最も緊密な安全保障上のパートナーとして、現在と将来の脅威を抑止する能力を共に強化し、必要に応じて緊密に協議しながら対処していきます。これは、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序に対する我々のコミットメントを裏付ける強力なメッセージです。我々は、東シナ海及び南シナ海における力又は威圧による一方的な現状変更の試みを深刻に懸念しています。インド太平洋における航行の自由は、国際社会の安定と繁栄にとって極めて重要な要素です。日本と英国の一層の協力が強く求められています。

我々は、「日英広島アコード」を新たな基盤としつつ、より大規模で、より頻繁で、複雑かつ実践的な共同演習を通じて、双方の部隊の相互運用性を強化すべく、つい先日、日本の国会で承認を得たばかりの日英部隊間協力円滑化協定を最大限活用していきます。我々は、英軍アセットに対する自衛隊のアセット防護措置の適用の可能性を視野に、二国間協力の活動をより高いレベルに引き上げます。実現すれば、英国は、米国、オーストラリアに次いで、そのような措置が適用される3番目の国となります。

我々は、2025年に空母打撃群をインド太平洋地域に派遣するという英国のコミットメントを大いに歓迎します。これは、両国の共同の能力を強化し、強固なパートナーシップをアピールする絶好の機会となるでしょう。

また、スーダンでの自国民の退避のようなケースにおける協力を含め、緊急事態における協力の深化も求められています。これらは、「日英広島アコード」の下で、日本と英国の新たな防衛パートナーシップを実体化するための取組例です。

日本は、日米同盟を基軸として、豪州、韓国、フィリピンといった国々と協力を深化させてきており、NATOとも協力を強化していきます。先日、英国と米国が発表した「大西洋宣言」では、英米両国がインド太平洋地域で同盟国やパートナーとの連携を強化する旨の言及がありました。日英の防衛パートナーシップが深まる中、日本としても、英米との安全保障協力を是非積極的に進めたい、そのように考えています。

安全保障の分野で我々の能力を強化することは、新たな時代を切り開く能力に直結します。しかし、日本と英国が描く新たな時代とは何か、と疑問に思われる方もいらっしゃるでしょう。次に取り上げる第三の指針は、そのような疑問に直接お答えするものです。

4 第三の指針：持続可能性及び繁栄のために互いに鼓舞し合う

日英協力の第三の指針は、「持続可能性及び繁栄のために互いを鼓舞し合う」ことです。日本と英国が目指す将来は、経済成長と持続可能性の上に成り立つ、包摂的な繁栄の時代です。日本と英国は、全ての国が法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序からひ益するよう、グローバルな強じん性に向けた国際的な取組を主導していきます。

これは、新たな時代を主導する上で、いわゆるグローバル・サウスの声に耳を傾け、食料、開発、保健、気候・エネルギー及び環境といった国際社会の課題を解決するための協力を推進することが不可欠であるという日英共通の考えを反映したものです。

また、互いの強みをいかすことで、課題をチャンスに変えることができるという自信も共有しています。一例を挙げましょう。かつて経済的な重荷と捉えられてきた気候危機が、今日、重大で差し迫った課題であるのと同時に、成長の機会とも捉えられています。

日本は、英国の洋上風力発電やクリーン技術の重要な投資国です。英国は、これらの分野で相当の経験を積んできました。この関係は、スナク首相の訪日の際に発表された「再生可能エネルギー・パートナーシップ」で具体化されています。エネルギー安全保障を確保し、2050年までにネット・ゼロを達成するためにクリーン・エネルギー移行を加速するという共通の目標の下、日本と英国は、再生可能エネルギーの開発と普及、クリーン・エネルギー・イノベーション、及び重要鉱物のサプライチェーンにおいて協力することが可能です。我々は、脱炭素化とエネルギー移行に向けた世界的な取組を包摂的な繁栄につなげるために取り組みます。

日本と英国は、イノベーションで強い実績を持つ2つの島国であるという似た背景を共有しており、両国の間には一層の協力の大きな可能性があると思っています。我々は、経済安全保障や、半導体、AI等の科学技術及びイノベーションの分野において、引き続き緊密に連携していきます。

日英は、また、ルールに基づく自由で開かれた国際経済秩序へのコミットメントを共有しています。この観点から、英国が今後CPTPPに加入することを歓迎しています。CPTPPの戦略的価値を共有する英国が、我々とともにインド太平洋地域の経済秩序を強化することは極めて意義深いことです。日本と英国が、米国とともに、法の支配に基づく自由で公正な経済秩序の形成に積極的に関与し続けることが重要です。

我々の強みをいかして解決策を世界に提供することへの共通の決意、それが、この第三の指針の中核です。

5 まとめ：日英関係を新たな高みへ

皆様、日本と英国の歴史は、シェイクスピアの時代にまで遡ります。1600年、英国の船乗りウィリアム・アダムスが、難破の後、日本の海岸に漂着したのが始まりです。彼は三浦按針という日本の名前で知られ、徳川幕府の外交顧問を務め、航海術や造船技術を紹介し、日本の文化や技術の発展に貢献しました。

19世紀、明治時代の夜明けに時を進めます。私の地元でもある現在の山口県に当たる長州藩の5人の若者が、当時の最新の技術と知識を学ぶために英国に渡航しました。「長州ファイブ」と呼ばれるこの5名の若者は、近代日本のリーダーとなり、後の初代総理大臣及び外務大臣が含まれました。それ以来、日本と英国の友好関係は、互いを鼓舞し合うものとなっており、時代の変化とともに協力の在り方を再定義してきました。

歴史的な転換期に直面する今、我々はより一層の高みを目指す機会を与られています。「日英広島アコード」、そして私が申し上げた3つの指針が支える我々の強化されたパートナーシップは、世界の平和、繁栄、そして強じん性に貢献するものです。我々のビジョンへのコミットメントによって力強く支えられた行動は、力の支配する未来とは異なる新たな時代を切り開くでしょう。日本は、欠かせないパートナーである英国や他の国々とともに、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を守り抜き、新たな時代を見据えた外交を主導していく決意です。御静聴ありがとうございました。